

123456

●F●O●R●P●R●O●F●E●S●S●I●O●N●A●L

ドリームバイザー特選メールマガジン(2)
木村喜由のマーケット通信 2006年4月28日

●D●R●E●A●M●V●I●S●O●R●.●C●O●M●●

当面トリッキーな展開が続くと想定

上げてもジリ高、落ち着いて安値を拾うが得策

4月中旬以降の株式市場は方向感が定まらない中で、平均株価が高値、安値を切り下げるといふあまり芳しくない動きとなっている。大幅な上昇を見せた後にこのパターンが出現した場合、虚心坦懐に判断して、しばらく弱気相場入りの可能性が高いといわざるを得ない。筆者自身は「春に浅押し、秋に深押し」というラフなイメージを抱いていたが、そのようなパターンが進行しているような気がする。最も注目している安値日柄は5月17-19日。もし正解の場合、この付近で割安優良株を買いたい。もし連休中に好材料が飛び出しレギュラーに高値を付けに行くなら8日か9日。そうなった場合は利食いを推奨する。上昇は長続きしない公算が高い。

米国株価は金利上昇と原油高というハンデキャップを抱えながらも戻り高値を更新中で、少なくとも世界の投資家にとって株式の投資配分を落とすのを促すような動きではない。してみると、PER計算のベースとなる業績が更新される決算発表シーズンの日本市場は、もう少し強い動きになってもよさそうなものだが、何といても動きを支配しているのは外人投資家で、国内勢は一向に主導権をとる気がないものだから、彼らの思惑次第で動くことになる。

最近の各市場の動きを見ていると、外国勢は景気の先行きを楽観的に見ていないか、景気がよくても株価に反応しにくいと見てのではないか。金利が上がったり、原材料や人件費が上がってくるからだ。現に、原油のほか、金や銅など最近の非鉄金属市況の上げがめざましいが、化学、鉄鋼、海運やトラック輸送、自動車部品などでとぼちちを受けている企業も出始めている。原油高で大儲けしているような石油最大手エクソンでさえ一桁の増益だったので、大幅増益シナリオはぼちぼち打ち止めではないか。

少なくとも今後もう一段上がりそうな長期金利との比較で買い進むほどには、今の株価は魅力的ではないのだろう。かえって、企業収益の底堅さには確信が持てそうなので、景気が多少減速したほうが長期金利が安定して歓迎されるそう。いずれにしても景気よく株価が跳ね上がるのではなく、投信マネーや自社株買いが下値を拾うため、ジリジリと安値が切りあがっていく展開となりやすい。何かの拍子でガクッと下がったところでそのような銘柄を黙って拾っておけばよいのだろう。

今年も5月17日前後が変化日に

下げは海外の目先筋が主導しているのだろう。彼らは政治的イベント(出来事)やテクニカル分析を重視するから、直感を与えそうな動きに注目すべきだろう。直近の高値は4月7日。昨年はその後の中国の反日デモで一気に崩れた。昨年安値から1年後になる4月18日は、急落があった場合の目先底候補と見ていたが、無事にクリア。24日の急落は千葉の補選とG7というイベントから見て納得できる。次の関門は3年前の日経225大底日である4月28日、本日である。しかし、本日は急落したとはいえ腹にこたえるものでなく、3年周期の変化日にふさわしいとは言えない。

次に注目されるのは連休明け。占星術ではこの時期は木星と天王星が120度の大吉角になるため、

ポジティブサプライズが発生しやすいのだという。木星は予想以上の好結果、天王星は予想外の出来事という暗示があり、特に株式市場では要注目。もし安値圏であればダメ押しの下げか突然の好材料で絶好の買い場となるはずだったが、残念でした。

最大のヤマ場は5月17-19日。昨年、一昨年の安値であり、27週急変サイクルの応答日にもなっている。さらに日経225については、ITバブルの高値2000年4月12日から大底2003年4月28日までの期間と対等となるのがこの時期。もしこの時期までに急落が起きていれば、だまされたと思って自分の一番好きな銘柄を買って下さい。あなたがそれで大儲けしてもお礼はいりませんから。

ちなみに、ギャンブルで5月中旬の下値サポートを調べたところ、TOPIXで1630、または1610というのが見えている。これは非常に強力なので、そう簡単には破られないとされている。

自分が管理できるのは貯蓄率と運用技法だけ

お金持ちになるにはどうしたらよいか。それを知るの簡単である。お金持ちの立身出世の伝記や苦労話は、大きな本屋に行けばたくさん並んでいる。図書館に行けばさらに豊富にある。もし年頃のお子さんがある読者なら、高校を出る前にそういう本を読ませておくべきだ。そこには困窮と忍耐、不屈と闘志というお決まりの題材が盛り込まれている。

問題はその後。実際にどうやってお金持ちになるか、である。才能、幸運、人脈、アイデアなど、他の誰かが真似しようとしても出来ないファクターがたくさんある。ただし年齢は問題にならない。ケンタッキーのサンダースじいさんや川銀蔵のような例もある。

超が付かない、ほどほどの金持ちになるため共通するのは、健康、勤勉、倹約の3Kである。これなら意志一つで誰でも出来る。まず大事なのがタネ銭作りである。これは貯蓄率すなわち自分の収入からどれだけ消費しどれだけ将来のための投資に回すかの決断である。技能習得や学業に投資するというのももちろん有効だ。次が何で儲けるかで、一番の近道が株式投資である。しかしマーケットや経済情勢は自分では管理不能で、せいぜい状況にうまく対応する程度のことである。90年代の日本の投資家と米国の投資家の運用成果には、運の差ほどに説明できる要素はない。だが長年勉強を続けてきた日本人は、順風に遇えばすぐに遅れを取り戻すことが出来たはずだ。

(了)

最終的な投資判断はご自身でお願いします。本文、データなど本メールマガジンの内容すべてに関する正確性、信頼

性、安全性、迅速性などに直接または間接的に起因する損害や費用などの一切について、その程度を問わず、ドリームバイザー・ドット・コム(株)およびマネックス証券

(株)、NPO日本個人投資家協会、その製作者、データ提供者、その他関係者は責任を負わず、損害賠償に応じません。また、メールマガジンの本文、データなどは著作権法などの法律、規制により知的所有権が保護されており、個人の方の本来目的以外での使用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません(法律による例外規定は除く)。以上の点をご了承の上、メールマガジンをご利用ください。